



「むかわの底力」で
おこ
まちを耕し、未来へつなぐ

『創造的復興・創生』へ

令和2年度 予算の概要

胆振東部地震からの復旧・復興に向けて

町長町政執行方針

教育行政執行方針

子育て支援情報のご紹介

協働で創るまちづくりへの思い

令和2年4月



令和 2 年度 予算の概要



令和 2 年度のむかわ町の予算規模

- 令和 2 年度のむかわ町の全会計の予算総額は、令和元年度とほぼ横ばいの 1 4 5 億 8 4 百万円
- 震災からの創造的復興・創生を目指すため、平成 1 8 年の合併以降最大の予算規模となった昨年度に続く大型予算に
- 昨年 7 月に策定した復興計画に基づき、住まいの再建を最優先課題とし、復旧・復興に向けた政策を推進する復興始動具現化予算を編成
- 喫緊の課題であるまちなか再生に着手し、第 2 次まちづくり計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を目指す

(単位：百万円)

	一般会計	特別会計	企業会計	合計
令和 2 年度	10,223	2,771	1,590	14,584
令和元年度	10,101	3,007	1,485	14,593
比較増減	122	▲236	105	▲9
増減率	1.2%	▲7.8%	7.1%	▲0.1%

予算関連でご不明な点がございましたら、むかわ町総務企画課財務グループ（電話 4 2 - 2 4 1 2）へお問い合わせください。



令和2年度 予算の概要



一般会計予算の概要 一般会計予算総額 10,223百万円

歳入

(百万円)



町税 対前年度 ▲16百万円
震災による営業所得、転出による納税者の減少により、町民税の減少が見込まれます。

地方譲与税等
対前年度 +57百万円
消費税改正に伴い地方消費税交付金が増加、新たに森林環境譲与税、法人事業税が交付されます。

地方交付税
対前年度 +100百万円
普通交付税は新たな公費負担に係る算定で増加、特別交付税が復旧費用に係る算定が終了し減少する見込みです。

分担金・使用料等
対前年度 ▲22百万円
農業事業終了に伴う受益者分担金の皆減、幼児保育無償化により減少します。新たに多子世帯における給食費軽減を行います。

国庫支出金
対前年度 ▲127百万円
震災に係る復旧事業がほぼ終了したことにより、補助金が大きく減少しています。

道支出金
対前年度 +81百万円
社会保障関連費用に係る財源、まちなか再生事業や鶴川高校生徒寮取得に係る交付金により増加する見込みです。

町債 対前年度 +136百万円
文京ハイツや末広団地C棟、生活館整備に係る借入することから増加しています。

諸収入等
対前年度 ▲87百万円
財産収入、寄附金、繰入金、繰越金を含みます。財政調整基金繰入額及び特定目的基金充当事業に係る事業費の変動により減少しています。

歳出

(百万円)



議会費 対前年度 +3百万円

総務費 対前年度 +228百万円
四季の館発電機メンテナンス等を行うため増加しています。

民生費 対前年度 +303百万円
アイヌ政策交付金事業（生活館整備、文化講演会）を行うため増加しています。

衛生費 対前年度 ▲368百万円
胆振東部地震災害等廃棄物処理事業終了したため減少しています。

農林水産業費
対前年度 ▲389百万円
農業基盤整備事業等の事業費が大きく減少しています。

商工費 対前年度 +50百万円
定住促進事業において、新たに民間賃貸共同住宅助成事業を開始するため増加しています。

土木費 対前年度 +1,102百万円
文京ハイツ・末広団地C棟の整備等を行うため増加しています。

消防費 対前年度 +76百万円
非常用発電機整備、消防鶴川支署移転整備を行うため増加しています。

教育費
対前年度 +195百万円
鶴川高校生徒寮取得費用、鶴川スケートセンタ等一の長寿命化工事を行うため増加しています。

災害復旧費
対前年度 ▲1,046百万円
震災に伴う各種災害復旧事業が減少しています。

公債費 対前年度 +18百万円

給与費 対前年度 +19百万円

諸支出金等
対前年度 ▲69百万円
公営企業に対する補助金、出資金が減少しています。



令和2年度の主な予想される出来事



1 文京ハイツの再建、末広団地の新設

予算額 1,040,424千円

応急仮設住宅で避難生活を余儀なくされている方々の入居期限経過後の住まいを確保するため、被災した文京ハイツ（定住促進住宅、1棟12戸）と末広団地（町営住宅、1棟18戸）の今年10月末完成（外構を除く）を目指し、整備します。

- 文京ハイツ 410,183千円
 - ・建設工事 400,000千円
 - ・工事管理委託料ほか 10,183千円

- 末広団地（C棟） 630,241千円
 - ・建設工事 600,000千円
 - ・外構工事 20,000千円
 - ・工事管理委託料ほか 10,241千円



文京ハイツ（被災前）

『住まいの再建』を成し遂げ、



2 鵜川高校生徒寮の再建

予算額 318,000千円

鵜川高校生徒寮が胆振東部地震で被災し、生徒等が仮設生徒寮に入居しており、入居生徒等が一日も早く本来の落ち着いた環境で生活できるよう、新たな生徒寮の今年12月末完成を目指し、整備します。

- 事業費総額 318,000千円
 - ・寮建設費 未定
(300,000千円前後)
 - ・入居想定 56名
(生徒54名、生徒指導員2名)
 - ・内容 生徒居室27室、指導員居室2室、事務所、厨房・食堂兼談話室、浴室、洗濯乾燥室、研修室など
 - ・備品整備



鵜川高校仮設生徒寮



令和2年度の主な予想される出来事



3 消防署鷗川消防支署の移転に向けた建設工事着工

予算額 144,091千円

胆振東部地震で被災し、損壊した胆振東部消防組合消防署鷗川支署が、津波浸水想定区域内に位置しており、災害により強いまちづくりを進めるため、津波浸水想定区域外への移転を進めます。

- 事業費総額 144,091千円
 - ・庁舎設計委託料 60,522千円
 - ・庁舎建設費 未定（設計内容による）
 - ・外構工事 53,504千円
 - ・調査設計委託料ほか 30,065千円



胆振東部消防組合消防署鷗川支署

『災害により強いまちづくり』 『まちなか再生』『地域商社』始動へ



4 まちなか再生 始動

予算額 22,933千円

胆振東部地震で被災し、大きな被害を受けた鷗川地区及び穂別地区のまちなか再生に向けた計画の策定と、まちなかに賑わいを取り戻す地域活性化の取組を進めます。

- まちなか再生計画策定事業 2,933千円
 - ・まちなか再生検討会（仮称）を設立、活動
 - ・ワークショップ形式などで活発に議論
 - ・検討会での検討結果をまちづくり委員会や地域協議会等の審議を経て町議会に報告予定
- まちなか復興賑わい創出事業 20,000千円
 - ・商工会、観光協会及び町による「（仮称）まちなか復興賑わい創出事業実行委員会」を立ち上げ活動
 - ・花を活用したサイン整備やふれあい広場開設、復興イベントの開催等



5 むかわ地域商社『M Dino』始動

予算額 24,487千円

むかわ町の豊富な地域資源を活用した、ビジネス創出を目指すむかわ地域商社の設立・運営を支援し、町内への経済循環を促進します。

- 事業費総額 24,487千円
 - ・人材招聘等業務委託料 16,687千円
 - ・起業家支援等業務委託料 2,750千円
 - ・地域商社への補助金 5,050千円





むかわ町長 竹中 喜之 に聞く

— 震災からの復旧・復興を進める上で大事な年を迎えますが、振り返ってみて。

北海道胆振東部地震の発生により未曾有^{みそう}の被害を受けた本町は、関係機関・団体をはじめ、これまで多くの方々のご支援をいただきながら、町民一丸となって一日も早い復旧・復興を目指し、取り組んできました。

震災から1年7ヶ月が経過し、インフラなどの災害復旧事業により、少しずつではありますが、町が再生していく兆しが現れてきています。

ご協力、ご支援をいただいております多くの皆さまに改めて感謝を申し上げます。

このような中、昨年7月に策定した「むかわ町復興計画」を基本として「創造的復興・創生」を目指し、令和2年度に各予算を計上しており、被災された方々の生活再建を最優先に施策を進めてまいります。

— 震災により人口減少は加速、これからのまちづくりはさらに重要な局面を迎えます。

震災以前から進行していた人口減少は、震災以降も加速しており、400人を超える人口が減少し、その半数以上が転出による社会減であり、まちの将来に不安を抱える状況が続いています。

まずは、被災された方々がこの町に住み続けられるよう住宅等整備を進めるとともに、移住・定住施策をはじめ、未来の担い手である子どもたちを育てる環境づくりや子育て支援の充実、産業基盤の強化や担い手の育成と確保などを進めます。

人口減少抑制には特効薬はありません。これまでしっかりと行ってきた施策を引き続き、丁寧に実施してまいります。

— 町民と協働で創りあげたまちの未来設計図である『むかわ町まちづくり計画』や喫緊の課題である人口減少対策を盛り込んだ『地方創生総合戦略』が令和2年度に終期を迎えることとなりますが、その辺りについてお聞かせください。

令和2年度は、まちの皆さまとさらに一体となって、まちづくりを進める年となります。



震災からの復旧・復興を進めるだけではなく、これからの5年、10年先を見据えて進めなければなりません。それには町民と行政との協働が大事になります。

このまちにいる皆さまがどのようなまちにしたいのか、その想いを「第2次むかわ町まちづくり計画」に形作っていくこととなります。

人口減少対策をはじめ、地域産業・経済の再生と発展や災害により強いまちづくりに向けて、「第2次むかわ町まちづくり計画」及び「第2期むかわ町・まち・ひと・しごと創生総合戦略」など、復興計画と一体となった総合計画の策定に取り組んでまいります。



むかわ町長 竹中 喜之 に聞く

— 復興始動具現化予算と銘打ち、合併以降最大となった昨年度に続く、大型予算となりました。

震災からの復旧・復興を進める上で、大規模な建設事業等により財政規模が拡大し、財源の確保に苦慮する中、まちの貯金である財政調整基金の取り崩しなどにより対応してきました。

今後、人口減少が進むにつれ、行政資源に対する制約は更に厳しい状況となる事を踏まえると、これまでどおりの考え方や進め方では持続的な財政運営が立ち行かなくなることが懸念されます。

「選択と集中による事業の重点化」や「新たな財源の創出」、「官民連携による民の力の活用」など、創意工夫に満ちた取組を一層推進し、限られた資源を効果的に活用しなければなりません。

このため、「まちづくり計画」と両輪で策定した「中長期財政運営指針」及び「新・行政改革大綱」については、震災以降の大きな変化を踏まえながら見直しを行い、当面実施する事業を配置した「中期財政計画」で進行管理するとともに、新たな視点で「行政改革」を進めます。

併せて、「公共施設等総合管理計画」において、利用状況、経費負担、地域バランスなどを勘案して設定した目標値に基づき、総量の最適化を進める等、この自然豊かなまちを将来に渡って維持できるよう、健全な行財政運営を行ってまいります。

— 何か、新たな動きもあるようですね。

令和2年度は、新しい挑戦が始まる年でもあります。

胆振東部地震で被災し、大きな被害を受けた「まちなか再生」に取り組むとともに、むかわ町の豊富な地域資源を活用した、ビジネス創出を目指す「むかわ地域商社」の設立・運営を支援し、町内への経済循環を目指して取り組んでまいります。

— 最後に一言お願いします。

昨年度は、東京の国立科学博物館の「恐竜博2019」でむかわ竜が全国デビューし、一躍有名になりました。恐竜・化石がもたらす交流も様々な場面で生まれ、リトアニア共和国アクメネ地域市と交流意向表明書を締結するなど、数年前の本町では想像もつかなかった新たな動きが出てきています。胆振東部地震では全国からご支援を頂戴し、むかわ町と関係する方々も多くできました。令和2年度には、北海道博物館で開催される「恐竜展2020」にむかわ竜も出展予定です。

そういったつながりを地方創生とも連動した、まちの魅力向上と交流、「関係・関心人口」の創出・拡大につなげ、まちの復旧・復興に向けたエネルギーに変えてまいります。

また、新型コロナウイルスのもたらす様々な悪影響も懸念しています。

むかわ町としても、対策本部を設置し、町内の感染予防の徹底を行っておりますが、予断を許さない状況です。

この難局を乗り切り、皆さまの力とともに収束できるよう全力を尽くします。

そして、経済影響も多大なものとなっています。

国や北海道が対策を図っておりますが、町としてもそういった動向を踏まえ、緊急支援対策を進めてまいります。

様々な困難が続きますが、今後も皆さまと議会、行政が一体となって、この難局を乗り越えつつ、震災からの創造的復興・創生を成し遂げてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。





むかわ町教育委員会教育長 長谷川 孝雄 に聞く

— 昨今の教育は多様化し、震災からの復旧・復興を進める上でも多くのことを求められているように感じます。このまちの教育行政をどのようにお考えでしょうか。

確かな教育を未来に引き継いでいくことが、地方創生や震災復興に昇華するものと確信し、「地方創生と復興は教育から」という信念のもと、教育行政を進めることが大事と考えています。

引き続き、教育施設の早期修復に取り組み、人口減少と少子高齢化、北海道胆振東部地震からの復旧・復興、新型コロナウイルス対策など様々な課題が山積していますが、これらの課題に立ち向かうため、むかわ町が持つ底力を活かし、次世代につなぐ取組をより一層進めてまいります。

— 学校教育の分野でのお考えを詳しくお聞かせください。

学校教育においては、子どもたちの自己肯定感を高め、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育み、社会の変化に対応できる「生きぬく力」を身につけることを柱とし、教育環境の充実を図ります。

そして、将来、自立した生き方が出来るよう、児童・生徒に対して引き続き「生活・学習習慣の改善」と「学校教育の質の向上」の取組を進める一方、学校給食を活用した「食育」も加えて、「地域の子どもは地域全体で育てる」という理念のもと、むかわの地域資源や良さに着目したふるさと教育である「むかわ学」についても、小・中学校から高校まで取組を連携させ、引き続き進めてまいります。

— では、社会教育の分野ではどのように。

社会教育においては、生涯学習活動が町民やまち全体の輝きにつながるものであることから、我がまちの自然や歴史を焦点にした学習活動を支援し、豊かな心と健康な体づくりの実践により、まちの活力を生み出す基盤づくりを行っていきます。

そして、まちの皆さまの多様なニーズに応じた選択可能な学習機会、社会貢献や地域づくりにつながる学びの場の提供に努め、生涯学習の推進に取り組んでまいります。

— 最後に、このまちの子どもたちについて、一言お願いします。

このふるさと「むかわ」で育つ皆さんが、自然豊かなむかわで学び、むかわを愛し、むかわで育って良かったと思える教育環境をつくっていきますので、ぜひ多くのことを学んでください。

そして、次代を担う子ども達には、未来を切り拓き、生涯にわたって生き抜く力を育むことが求められています。

そのためには、私たち大人が一丸となって、学校・家庭・地域が学びの協働体として共通認識に立ち、地域ぐるみで子ども達を守り支えていくことが重要です。

教育を通じて、この町に住む一人ひとりの力で、むかわ町を未来に飛躍させる「まなぶよろこびを感じるまち」の実現を目指す着実な教育行政を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解とご協力を心からお願い申し上げます。





基本的な考え方

むかわ町は、新町安定期での確実な歩みを進めるため、町長が2期目の基本姿勢に掲げた『「むかわの底力」でまちを耕(おこ)し、未来へつなぐ』をテーマに、協働のまちづくりに向けて6つの分野における各施策を推進します。

基本姿勢

町政

「むかわの底力」で
まちを耕し、未来へつなぐ



基本政策

～6つの政策の柱で
「地元力」をさらに耕上～

- 1 共に助け合い健康で安心して暮らせるまちづくり - くらす -
- 2 みんなが安全・安心に暮らせるまちづくり - まもる -
- 3 産業・経済から地域を元気にするまちづくり - はたらく -
- 4 多様な芽を育て生涯にわたって活躍できるまちづくり - まなぶ -
- 5 次代を見据えた協働のまちづくり - 未来へ -
- 6 多様なネットワークを大切にするまちづくり - つなぐ -

基本的な考え方

むかわ町の教育目標である「海・川・山の豊かな自然を生かし、人間愛に満ちた活力ある『むかわ』の人づくりをめざす」ことを基調とし、むかわ町教育大綱の方針に基づき、各施策を推進します。

教育目標

教育

「海・川・山の豊かな自然を生かし、
人間愛に満ちた活力ある『むかわ』の人づくりをめざす」



令和2年度の主な新規・拡充事業



令和2年度の主な新規事業



令和2年度の主な拡充事業



高齢運転者事故防止対策助成事業

予算額 1,500千円

高齢運転者の交通事故防止及び事故後の被害軽減を図るため、使用する自家用車に後付けで安全装置を設置する費用の一部を助成する。



新生児聴覚検査費助成事業

予算額 480千円

音声言語発達等に影響する聴覚障害の早期発見、早期支援を行うため、出産時に新生児が行う新生児聴覚検査費用を全額助成する。



新たな生活館の整備

予算額 306,594千円

アイヌ文化等の次世代への承継を確実なものとするとともに、地域内外における交流を活性化させ魅力ある社会形成を行うため、宮戸地区に生活館の整備、文化講演を開催する。



非常用発電設備等整備事業

予算額 44,098千円

災害発生時に穂別地区の対策本部となる総合支所が十分機能するよう大型非常用発電機を整備し、北海道胆振東部地震により明らかになったテレビ及び情報端末に係る課題を解消する。

また、鷗川地区の指定避難所である春日生活館及び4集落センターに、停電時に非常用発電機を接続することで室内電力供給が可能となるよう電源切替装置を整備する。



鷗川地区市街地行政防災無線難聴等対策

予算額 28,166千円

鷗川地区行政防災無線を活用するにあたり、電波法改正に対応するため必要な対策工事を行う。

また、緊急時に行政防災無線（スピーカー）による音声で鷗川地区市街地内で聞き取りづらい町民の方に個別受信機を貸与する。



北海道胆振東部地震震災記録誌の作成

予算額 2,000千円

北海道胆振東部地震に関する記録を残し、事実や経験、そして教訓を後生に伝えるとともに、復興への歩み出しを全国から多大な支援をいただいた方々に発信するため、厚真、安平、むかわ町で取り組む。



指定避難所多目的トイレ等整備事業

予算額 29,283千円

鷗川地区の指定避難所である鷗川中央小学校体育館トイレ洋式化に併せ、高齢者や身体が不自由な方が避難することを考慮し、多目的トイレを新設する。

また、子どもたちが安心して学習に取り組める環境を整えるとともに、災害時における避難所の利便性向上を図るため、鷗川中央小体育館、穂別小校舎及び体育館のトイレを全て洋式化する。



小中学校校内通信ネットワーク整備

予算額 25,263千円

次世代を担う子どもたちのICT教育環境の充実を図るため、各小中学校内のLAN、無線アクセスポイント、タブレット端末の保管用受電キャビネット等を整備する。



令和2年度の主な新規・拡充事業



農業振興施設等整備事業補助

予算額 58,828千円

JAとまこまい広域穂別支所の原料農作物の集荷体制計画に基づき整備する多目的倉庫整備に対し補助する。



民間賃貸共同住宅建設助成事業

予算額 30,000千円

町外への人口流出を抑制し、定住促進による人口増加及び地域の活性化を図るため、民間が建設する共同住宅建設費を助成する。



UIJターン新規就業者支援事業

予算額 2,000千円

東京圏に在住し、東京23区へ通勤していた方がマッチング支援の対象となる中小企業に就業し、町内に移住する場合、その費用の一部を助成する。



JR日高線利用の促進

予算額 2,750千円

日高線の利用を促進するための活動の一つとして、JR北海道と共同して「むかわ竜」をデザインとしたラッピング列車の運行に取り組む。



モンゴル国科学アカデミー古生物学研究所との学術交流

予算額 300千円

恐竜・化石を契機に、モンゴル国科学アカデミー古生物学研究所と包括連携を締結し、学術交流や研究活動の活性化、また、資料の交換交流や学習プログラム開発などに取り組む。



リトアニア共和国アクメネ地域市との国際交流

予算額 2,056千円

令和元年11月に相互交流の意向表明書を交わしたリトアニア共和国アクメネ地域市と文化や歴史、古生物学の分野で交流を深める。



穂別地区情報通信設備の更新 (拡充)

予算額 204,435千円
(前年度 46,350千円)

穂別地区の地域情報施設（地域情報端末やテレビの通信網）の管理運営に係る経費を負担するとともに、光インターネットサービス（Bフレッツ）終了に伴うサービス更改工事を行う。



地域おこし協力隊活動支援事業 (拡充)

予算額 29,349千円
(前年度 15,539千円)

都市地域からの人材を積極的に招致し、地域資源の活用による地域支援活動を通じて地域活性化を促進することで、町との交流促進を図りつつ地域の発展・推進・強化を図る。



学校給食センター運営 (拡充)

予算額 110,819千円
(前年度 112,477千円)

小中学校の学校給食を調達するため、学校給食センターを運営する。なお、給食費は多子世帯の負担軽減を図るため、給食提供を受ける第2子は半額、第3子以降は無償とする。



主な町政施策（くらす）



1 共に助け合い健康で安心して暮らせるまちづくり -くらす-

主な施策の概要

- 地域特性に応じた妊産婦及び乳幼児の健康保持及び増進に関する包括的支援
- 健康寿命の延伸を意識した、高齢者が豊富な経験や知識を活かすことができる活躍の場づくり
- 介護予防やサービス事業の一部拡大などによる住み慣れた地域で長く安心して暮らせる地域づくりの推進
- 障がい福祉計画に基づく、地域における交流や活動の場の整備、サービスの充実
- 疾病の早期発見、早期治療により重症化予防を図るための取組の推進と受診機会の拡充
- 地震の影響による心身のケアについて、関係機関と連携した町民の心の健康状態の把握と回復に向けた支援を行うとともに、見守りを行う人材として「ゲートキーパー」の段階的な養成の実施



主な事業一覧

事業名	概要	予算額(千円)
拡 発達支援センターの運営 【子育て福祉G・町民G】	心身の発達に心配のある子どもの発達を支援するため、子ども発達支援センター鶴川たんぼほ及び穂別きらりを運営する。また、鶴川地区においても保育所等訪問支援を開始し、療育の充実を図る。	21,662 ③1 (15,606)
子育てコンシェルジュの配置 【子育て福祉G・町民G】	多様な子育てニーズに対応するため、情報提供、相談、助言を行う専門相談員を子育て窓口(鶴川)、子育て発達支援センター(穂別)にそれぞれ配置する。	4,913 ③1 (4,562)
穂別診療所の運営 【穂別診療所】	町民の安心と健康を守るため、地域に密着した医療サービスを提供する穂別診療所を運営する。また、胃内視鏡装置の更新、ポータブルトイレ及び無線マットセンターを追加整備する。	438,016 ③1 (541,136)
鶴川厚生病院の運営 【保健介護G】	町民の安心と健康を守るため、地域に密着した医療サービスを提供する鶴川厚生病院を、北海道厚生農業協同組合連合会による指定管理制度で運営する。また、眼底カメラ、温冷配膳車を更新する。	268,170 ③1 (271,464)
拡 健康診査事業 【保健介護G・健康G】	各種健康診査やがん検診を推進し、健康寿命の延伸と医療費の適正化を図る。また、後期高齢者重症化予防のため、心電図やクレアチニン検査等を追加、胃がん検診に内視鏡検査を追加する。	17,410 ③1 (17,126)
拡 在宅生活支援事業 【保健介護G・健康G】	住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、在宅生活高齢者等への介護保険サービス以外の除排雪に係る軽度生活支援や外出支援事業を実施し、在宅生活支援の充実を図る。また、外出支援サービスに生活に必要な買い物等を追加する。	8,214 ③1 (6,707)
公共下水処理場機器更新事業 【上下水道G】	鶴川地区公共下水処理場のベルトコンベアを更新する。	50,000 ③1 (64,800)

[表記注略] 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ③1:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な町政施策（まもる）



みんなが安全・安心に暮らせるまちづくり -まもる-

主な施策の概要

- 仮設住宅等で避難生活をされている方々の住まいの確保
- 防災意識の高揚とスキルアップに向けた防災マスターの育成支援、防災意識の向上を目的とする自主防災組織の設立支援
- 強固な消防体制の構築に向けた設備や資機材などの効果的、計画的な整備
- 被災時の対応や復旧・復興に関する重要記録の保存・活用（震災アーカイブ）
- 防災行政無線や情報端末の活用、その他情報伝達方法の調査・研究
- 非常用電源設備の確保、多目的・洋式トイレの整備による避難所機能の強化
- 道路・公園等の計画的な整備
- 簡易水道拡張事業の計画的な実施、未普及地域における水道事業認可着手や老朽化水道管の更新



主な事業一覧

事業名	概要	予算額(千円)
防災対策事業 【危機対策G・企画管理G】	災害等の不測の事態に備え、地域防災マスターの育成や防災研修会・避難訓練を実施する。また、防災行政無線の維持・管理、災害備蓄用品の整備・更新等を進める。	26,611 ③(20,528)
胆振東部消防組合負担金 【危機対策G・企画管理G】	町民の生命や財産を守るため、むかわ町、厚真町、安平町の3町で構成する胆振東部消防組合の運営費（消防車両、資機材、被災箇所等の整備含む）を負担する。	478,345 ③(528,587)
胆振東部消防組合負担金消防署穂別支署災害復旧工事 【危機対策G・企画管理G】	北海道胆振東部地震により被災した消防署穂別支署庁舎裏側外構の復旧工事を行う。	8,030 ③(15,004)
町道の整備 【技術G・建設G】	生活や産業に欠かせない町道の整備を実施する。	82,379 ③(48,248)
河川維持管理業務 【技術G・建設G】	両地区の水門などの操作を委託するほか、大雨等により埋設した土砂の除去や必要な箇所の護岸補修を実施する。	10,851 ③(4,733)
交通安全推進事業 【生活環境G・町民G】	交通事故のない安全で安心なまちの実現を目指し、交通安全教室等の充実や普及啓発運動等を実施する。	6,928 ③(6,157)
安全・安心対策事業 【生活環境G・町民G】	暴力や犯罪から守られ、安心して暮らせる町民生活を確立するため、町民の自主的な防犯活動への支援や防犯に配慮した環境整備を図る。	1,183 ③(1,249)

[表記注略] 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ③:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な町政施策（はたらく）



3 産業・経済から地域を元気にするまちづくり -はたらく-

主な施策の概要

- 「むかわ町地域担い手育成センター」を中心に「むかわ町新規就農等受入協議会」と連携した担い手の育成・確保
- 生産意欲や所得向上の取組を支援する「基金事業」を両地区JAと連携して効果的に実施
- 被災した林道復旧や民有林の整備を促進
- 鶴川漁業協同組合を主体とした漁価向上や販路拡大を支援するとともに、「ししゃもふ化場」建設を推進
- 町民の消費活動拡大と地域経済循環を目的とする商工会主体のプレミアム商品券発行事業への支援
- 「起業力耕上促進事業」により、まちの特色や地域資源を活用した新規起業や新たな事業展開を支援
- 町外（東京圏）から就業・起業者を呼び込むため、移住経費を助成するとともに、町内での住宅建設、リフォーム等への助成や空き家活用を図り、定住を促進



主な事業一覧

事業名	概要	予算額(千円)
地域担い手育成センター補助 【農政G・産業G】	農業の継続的な発展と地域社会の活力を維持するため、農業を支える人材育成、新規就農者を確保するための体験受入から就農までの活動をサポートするセンター機能を支援する。	7,500 ③1 (9,787)
新むかわ町地域農業活性化推進基金事業補助金（鶴川・穂別） 【農政G・産業G】	町とJAが出資した基金を活用し、農業生産対策として農業経営に資する生産者の取組を支援する。	30,000 ③1 (30,000)
森林整備担い手対策事業 【林務水産G】	雇用の長期化・安定化を図るため、林業作業員の就労日数に応じて奨励金を支給する制度の負担金を拠出するとともに、北海道林業・木材産業人材支援協議会に加盟し、林業人材の育成を支援する。	1,568 ③1 (1,463)
ししゃもふ化場建設推進事業 【林務水産G】	地域ブランドである「鶴川ししゃも」を将来にわたり守っていくため、ししゃもふ化場の建設を推進する。	3,502 ③1 (4,103)
起業力耕上促進事業 【商工観光G・産業G】	まちの特色や地域資源を活かし、新たな事業展開を行う個人や法人等支援する制度「起業力耕上促進事業」を推進する。	11,000 ③1 (10,000)
商工会支援 【商工観光G・産業G】	町の中小企業経営改善や商工業の振興、地域経済の活性化のため、その中心となる商工会を支援する。	18,913 ③1 (18,540)
観光協会支援 【商工観光G・産業G】	様々な地域資源の活用や広域的視点による観光等を推進するため、その中心的な役割を担う観光協会の運営支援をする。	17,629 ③1 (16,349)
移住・定住促進事業 【技術G・建設G】	移住・定住対策として、新築及び中古住宅取得の助成、住宅リフォームに対する助成、民間賃貸住宅リフォームに対する助成を実施する。	33,000 ③1 (33,000)

[表記注略] 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ③1:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な町政施策（まなぶ）



4 多様な芽を育て生涯にわたって活躍できるまちづくり -まなぶ-

主な施策の概要

- 被災した鷗川高校生徒寮の新たな生徒寮を整備
- 震災後の児童生徒の心のケアに対応するため、スクールカウンセラーを全校に配置するとともに、全教職員のストレスチェックを実施
- 東京2020オリンピック・パラリンピックを通じて、復興に取り組むまちの姿を発信
- 鷗川高校及び穂別高校への魅力ある学校運営に対する振興対策補助の継続や通学支援を実施
- 全年代の生涯学習推進を図るため、アドバイザーの配置や基金の活用による全道・全国大会へ出場する団体等への支援
- 町民憲章が掲げる子どもたちの健やかな成長への願いとともに、子どもたち自身が自らの思いとしてまとめた「むかわ子ども宣言」を普及・実践
- 教育部局と連動した施策実施による地域活性化



主な事業一覧

事業名	概要	予算額(千円)
新 鷗川高校生徒寮の再建(再掲) 【社会教育G・教育振興室】	鷗川高校生徒寮が胆振東部地震で被災し、生徒等が仮設生徒寮に入居しており、入居生徒等が一日も早く本来の落ち着いた環境で生活できるよう、新たな生徒寮の今年12月末完成を目指し、整備する。	318,000 ⑳ ()
道立高校振興対策 【学校教育G・教育振興室】	町内にある2つの高校の魅力を高めながら高校振興を図るとともに、鷗川高校へ町外から通う生徒に対し、通学定期券を給付する。	19,103 ⑳ (20,190)
コミュニティスクール機能の充実 【学校教育G・教育振興室】	地域住民が学校に集まりやすい仕組みをつくり、学校が地域の活動拠点となる「地域とともにある学校づくり」を目指すため、学校運営協議会を設置するなどコミュニティスクールの機能を充実する。	1,260 ⑳ (1,257)
中高一貫教育の推進 【学校教育G・教育振興室】	キャリア教育や「むかわ学」を通じて地元理解を深める活動や通学バスの運行、生徒寮の運営支援等を行うほか、新たにICT教育を活用した学習支援を行い、特色ある中高一貫教育を推進する。	1,000 ⑳ (1,000)
拡 教職員健康診査 【学校教育G・教育振興室】	小中学校に勤務する教職員を対象に健康診断を実施し、健康状態の把握及び改善を図る。また、震災以降の変化を把握、きめ細やかな教育相談体制の充実を図るため、ストレスチェック検査を行う。	1,006 ⑳ (1,009)
拡 鈴木章記念事業 【学校教育G・教育振興室】	鈴木章先生のノーベル賞受賞を記念し、子どもたちの学習意欲を高める事業を実施する。また、例年実施する中高生海外派遣事業について、派遣人数を2名拡大し10名とする。	9,231 ⑳ (6,959)
生涯学習基金活用事業 【社会教育G・教育振興室】	生涯学習推進基金を活用し、全道・全国大会へ出場する団体等への支援、指導者育成派遣事業及び町内の団体等が開催する文化・スポーツイベント事業等に係る費用を支援する。	4,500 ⑳ (4,500)

[表記注略] 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ⑳:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な町政施策（未来へ）



5 次代を見据えた協働のまちづくり - 未来へ -

主な施策の概要

- 国内最大の恐竜全身骨格化石『むかわ竜』を北海道博物館で開催される「恐竜展2020」で展示し、まちの知名度・魅力向上や交流人口（観光客）を創出
- むかわ町の豊富な地域資源を活用した、ビジネス創出を目指すむかわ地域商社の設立・運営を支援し、将来的にまちが抱える課題解決に結びつけ、地元力を向上
- 博物館周辺エリア再整備基本計画に基づく新たな博物館整備に向けて、恐竜をはじめとする古生物化石を活かした恐竜ワールド構想によるまちづくりを推進
- 子ども化石くらぶ「ハドロキッズチーム」による化石資料の活用や体験を通じて、未来の古生物学者を育成
- 人口減少対策をはじめ、地域産業・経済の再生と発展や災害により強いまちづくりを目指すため、町民と協働で次期まちづくり計画等を策定
- 「まちづくり耕上促進事業」により、若い世代主体の協働の取組を発展させながら、連携事業を促進するとともに、復興に寄与する取組を支援



主な事業一覧

事業名	概要	予算額(千円)
拡 恐竜化石を活かしたまちづくり推進事業 【恐竜ワールド戦略室】	「ハドロキッズチーム」の活動を通じ、まちの関係・関心人口の拡大を図るとともに、博物館に新たな設備を導入し、来訪者の満足度を高める。	9,690 ③1 (7,186)
拡 化石保全事業の推進 【穂別博物館】	恐竜化石をはじめとした古生物化石の発掘現場の保存とあわせて、現場周辺における発掘体験をするための環境を整備する。	5,015 ③1 (1,905)
第2次むかわ町まちづくり計画の策定 【政策推進G】	町民への調査結果・分析を受け、まちづくり委員会、新たなむかわ町を創造するワークショップを開催し、まち・ひと・しごと創生総合戦略と一体的な計画を策定する。	8,925 ③1 (7,458)
まちづくり耕上促進事業 【政策推進G】	協働のまちづくりを推進するための重要なツールとして、地域の活性化やコミュニティ再生に資する活動、震災の風化防止やまちの復興に寄与する事業を支援する。	10,000 ③1 (10,000)
自治会・町内会（連合会）の交付金 【政策推進G・企画管理G・町民G】	コミュニティ活動の基盤である自治会・町内会の活動を促進するため、各種活動を支援する。	4,746 ③1 (4,835)

【表記注略】 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ③1:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な町政施策（つなぐ）



6 多様なネットワークを大切にするまちづくり -つなぐ-

主な施策の概要

- これまで培ってきたつながり（人・地域・資源）を軸にしながら、「関係・関心人口」※拡大に向け、ふるさと納税の充実や地方創生による持続可能なまちづくりを推進
※移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。
- 震災復旧をきっかけとして得た町内外の連携を促進
- アイヌ文化などの地域共生社会の実現を目指すとともに、白老町に開設される「民族共生象徴空間（ウポポイ）」との連携を図りながら、新たな人の流れを創出
- 姉妹都市である富山県砺波市との交流を推進となみ
- 東胆振定住自立圏共生ビジョン、にっぽん恐竜協議会等の広域的連携を推進
- モンゴル国科学アカデミー古生物学研究所やリトアニア共和国アクメネ地域市との国際的な交流を実施
- 穂別博物館内に設置されている北海道大学総合博物館の「古生物学研究分室」との連携や博物館リニューアルに向けた研究及び地域振興等を実施
- 群馬県桐生大学と連携した「心に響くアート・デザイン」の力を活用し、まち全体をステージとした恐竜ワールド構想の物語を展開



ボランティア



主な事業一覧

事業名	概要	予算額(千円)
拡 恐竜化石を活かした広域的な連携事業 【恐竜ワールド戦略室】	学術機関等と連携した展示・普及活動の推進、まちの資源を活用した町民機運の醸成を高める。	① (10,126 8,283)
新 新たな生活館の整備(再掲) 【子育て福祉G】	アイヌ文化等の次世代への承継を確実なものとするとともに、地域内外における交流を活性化させ魅力ある社会形成を行うため、宮戸地区に生活館の整備、文化講演を開催する。	① (306,594)
広域連携・関係人口創出事業 【政策推進G・商工観光G】	東胆振定住自立圏共生ビジョンの推進をはじめ、姉妹都市交流、自治体連携や自治体交流等による広域的な連携を一層推進するとともに、本町に関心や関わりを持つ方々と交流を深める。	① (3,275 4,402)
新 モンゴル国科学アカデミー古生物学研究所との学術交流(再掲) 【恐竜ワールド戦略室】	モンゴル国科学アカデミー古生物学研究所と包括連携を締結し、学術交流や研究活動の活性化、また、資料の交換交流や学習プログラム開発などに取り組む。	① (300)
新 リトアニア共和国アクメネ地域市との国際交流(再掲) 【恐竜ワールド戦略室】	令和元年11月に相互交流の意向表明書を交わしたリトアニア共和国アクメネ地域市と文化や歴史、古生物学の分野で交流を深める。	① (2,056)
新 北海道鉄道利用の促進 【政策推進G】	維持困難な線区における定時性や利便性、快適性の向上などの利用促進を目的に北海道を通じて、JRの支援を行う。	① (1,100)

【表記注略】 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ①:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な教育施策（学校教育）



学校教育の推進

1 確かな学力の育成

- 学校・家庭・地域の連携強化による「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進と「家庭学習の手引き」の作成・活用
- 「わかる授業」による「確かな学力」の育成に向け、チーム・ティーチング、習熟度別少人数指導や放課後・夏/冬休みを利用した補充サポート学習を実施
- 英語指導助手の配置と新学習指導要領の改訂・移行に合わせた小学校英語教育への対応
- 英語学習の成果確認とグローバル人材の育成に向けて、鈴木章基金を活用した中高生の海外派遣（オーストラリア）を実施

2 豊かな心と健やかな体の育成

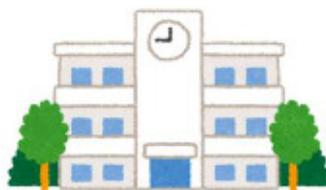
- いじめ・不登校の未然防止や学級崩壊の予防に向けて、スクールカウンセラーや心の相談員活用や学校生活における意欲や満足感及び学校集団の状況を測定する教育心理検査を実施
- 学校給食を活用した「食育」や「コーディネーショントレーニング」の普及、NPO法人「むーブ」からの指導者派遣を実施

3 信頼される学校づくりの推進

- 学校が地域の核として様々な活動の拠点となり、地域の方々が学校に集まりやすい仕組みづくりを進めるために導入したコミュニティスクールを推進
- 子どもたちに「生きる力」を育む学校教育の推進に向けて、優れた資質・能力を有する教職員の確保と教職員の働き方改革を推進
- 学校教育アドバイザーを各学校の指導・相談役として位置付け、教育公務員としてのコンプライアンスのより一層の徹底や指導力向上のための教職員研修会を開催

4 特別支援教育の充実

- 障がいのある子ども達の的確な把握と適切な指導及び支援のため、就学前からの見守りや学校内外の情報共有と関係機関との連携強化による専門性の高い特別支援教育を推進
- 特別支援学級に属さない児童・生徒への効果的な指導の充実を行う通級指導の実施と個々の状況に配慮した支援を行う支援員や介助員の配置





主な教育施策（学校教育）



5 道立高等学校の振興対策

- 鷗川高校におけるキャリア教育や地元理解を深める「むかわ学」の実施、ボランティア活動や吹奏楽を柱とした鷗川中学校との連携強化により、中高一貫教育を継続・充実し、将来のむかわを担う人材育成の取組を支援
- 鷗川高校の町外生徒の確保に向けた苫小牧・鷗川間の通学バスの運行やJR定期券給付、生徒寮の運営継続
- 穂別高校と穂別小・中学校との連携により、ふるさとを支える人材ビジョンを共有し、地元からの進学者を確保するため、進学塾への通塾支援やキャリア教育推進のための助成、穂星寮入寮生の負担軽減や学業等の活動奨励金の支給などの支援を継続

6 教育環境の整備・充実

- 安全・安心でおいしい学校給食の提供に向けた食育の推進やアレルギー対策の実施
- 要保護及び準要保護児童生徒就学援助費の継続と新入学児童・生徒の学用品費等の早期支給
- ICT活用能力の育成に向けた実物投影機（書画カメラ）やデジタル教材を活用した「わかる授業」への取組と授業用及び校務用コンピューターの計画的更新
- 読書活動の推進に向けて、学校図書支援員を配置し、図書館との連携による学校図書整備のための調査研究を実施

主な事業一覧（学校教育分野）

事業名	概要	予算額(千円)
町立学校の支援員配置 【学校教育G・教育振興室】	各学校に学習補助を行う支援員、学校生活支援を行う特別支援員を配置する。	17,688 ③(15,394)
学校教育アドバイザー・心の相談員の配置 【学校教育G・教育振興室】	教育課題の援助や助言を行う学校教育アドバイザーを配置するとともに、生徒の悩みやいじめ・不登校の相談・指導を行う「心の相談員」を穂別中学校に配置する。	3,948 ③(3,150)
英語指導助手の配置 【学校教育G・教育振興室】	英語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるため英語指導助手を、鷗川地区と穂別地区にそれぞれ1名配置する。	10,330 ③(10,792)
拡 鈴木章記念事業（再掲） 【学校教育G・教育振興室】	鈴木章先生のノーベル賞受賞を記念し、子どもたちの学習意欲を高める事業を実施する。また、例年実施する中高生海外派遣事業について、派遣人数を2名拡大し10名とする。	9,231 ③(6,959)
コミュニティスクール機能の充実（再掲） 【学校教育G・教育振興室】	地域住民が学校に集まりやすい仕組みをつくり、学校が地域の活動拠点となる「地域とともにある学校づくり」を目指すため、学校運営協議会を設置するなどコミュニティスクールの機能を充実する。	1,260 ③(1,257)
通学バス運行事業 【学校教育G・教育振興室】	小・中学校生の通学利用に係る町営バス及び学校行事等に係るバスの運行を支援する。	53,777 ③(54,014)
中高一貫教育の推進（再掲） 【学校教育G・教育振興室】	キャリア教育や「むかわ学」を通じて地元理解を深める活動や通学バスの運行、生徒寮の運営支援等を行うほか、新たにICT教育を活用した学習支援を行い、特色ある中高一貫教育を推進する。	1,000 ③(1,000)
小・中学校就学援助事業 【学校教育G・教育振興室】	経済的理由で就学が困難な児童及び生徒の保護者に対し、学用品や修学旅行費用などを援助する。	11,422 ③(11,524)
道立高校振興対策（再掲） 【学校教育G・教育振興室】	町内にある2つの高校の魅力を高めながら高校振興を図るとともに、鷗川高校へ町外から通う生徒に対し、通学定期券を給付する。	19,103 ③(20,190)

【表記注略】 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ③:平成31年度(令和元年度)の予算額



主な教育施策（社会教育）



II

社会教育の推進

1 生涯学習の推進

- まちの未来を担う青少年の育成に向けて、中学生による少年の主張大会や小・中・高校生による読書感想文コンクールの開催、あいさつ運動の推進、子ども達の正しい生活・学習習慣の定着を目指す通学合宿を実施
- 子育て家庭への親子の交流や子育てに関する情報提供とニーズの把握によるハッピー子育て塾などの家庭教育事業を推進
- 女性教育や学びの場の確保に向けた「ふれあい大学」や「ことぶき学級」、「楽習塾」などの講座充実と、学習経験や成果を活用する「みんなが先生、どこでも教室」の推進による地域コミュニティ形成を促進
- 自ら人間性を高め、次代の社会的活動の担い手となる人材の育成に向けた生涯学習推進派遣事業の活用や青年団などの活動支援を実施
- 非核平和の町の平和教育の一助とするため、町内中学生を広島平和記念式典へ派遣



2 文化・スポーツ活動の推進

- 文化・スポーツ活動の中核団体となる文化協会、体育協会及びNPO法人「むーブ」への支援を継続し、幅広い文化・スポーツ活動を推進
- 「むーブ」の活動基盤となる体制づくりに向けた人材確保や運営支援を実施
- 地域文化の継承と振興に向けた総合文化祭・町民文化祭の活動やアイヌ文化の伝承保存活動への支援実施と芸術文化に触れる機会の確保
- 「地元学」の視点による地域文化財等の掘り起こしや再整理の検討
- スポーツ指導者養成や活動支援、全道・全国大会への出場支援、スポーツ団体の支援と連携を図り、マラソン大会やスポーツ教室等の開催





主な教育施策（社会教育）



3 図書館・博物館活動の充実

- 家庭教育の向上や地域文化等の発展に向けた穂別図書館とまなびランド図書室機能の充実
- 「むかわ町子どもの読書推進計画」に基づき、ブックスタート事業やボランティア団体等による読み聞かせ会などの実施
- 古生物化石のクリーニング、北海道大学総合博物館との相互協力協定に基づく研究、特別展、普及講演会の開催
- 国内最大の恐竜全身骨格化石『むかわ竜』（学術名：カムイサウルス・ジャポニクス）をはじめとした、道の天然記念物ホベツアラキリュウ、町の天然記念物モササウルス、ウミガメ、陸生カメ、イルカなど博物館が収蔵する貴重な化石を活用し、子どもたちの学習意欲や知的関心に応える取組を実施
- 外部研究者と連携した調査・研究や情報発信



主な事業一覧（社会教育分野）

事業名	概要	予算額(千円)
新 鶴川高校生徒寮の再建（再掲） 【社会教育G・教育振興室】	鶴川高校生徒寮が胆振東部地震で被災し、生徒等が仮設生徒寮に入居しており、入居生徒等が一日も早く本来の落ち着いた環境で生活できるよう、新たな生徒寮の今年12月末完成を目指し、整備する。	318,000 ③ ()
生涯学習アドバイザーの設置 【社会教育G・教育振興室】	地域に根ざした生涯学習事業を推進するため、生涯学習アドバイザーを配置する。	3,434 ③ (2,863)
生涯学習基金活用事業（再掲） 【社会教育G・教育振興室】	生涯学習推進基金を活用し、全道・全国大会へ出場する団体等への支援、指導者育成派遣事業及び町内開催する主催事業に係る費用を支援する。	4,500 ③ (4,500)
広島平和記念式典派遣事業 【社会教育G】	子どもたちに核廃絶と世界平和の尊さを学ぶ機会を提供し平和教育を推進するため、広島平和記念式典行事への参加及び平和関連施設等に町内中学生を派遣する。	2,224 ③ (2,600)
総合型スポーツクラブ「むーブ」支援 【社会教育G・教育振興室】	スポーツ活動の中核を担うNPO法人「むーブ」等に対する支援を行い、新たな事業展開への基盤をつくる。	4,300 ③ (4,436)
町民体力づくり事業 【社会教育G・教育振興室】	町民の基礎体力づくりとスポーツ振興事業を実施する。	1,497 ③ (1,721)
スポーツ施設の管理運営 【社会教育G・教育振興室】	各スポーツ施設を管理運営する。	90,881 ③ (143,398)
博物館活動の充実 【博物館】	「穂別博物館」に展示・収蔵されている貴重な化石類等を活用し、子どもたちの学習意欲や知的関心に応える博物館活動を推進する。	28,551 ③ (26,397)
図書館活動の充実 【図書館】	「穂別図書館」と「四季の館まなびランド図書室」の充実により、確かな学力、豊かな心を育むほか、自主的・探求的な学習活動を促進する。	9,076 ③ (8,222)

〔表記注略〕 新:新規事業 拡:拡充事業 再掲:再掲載事業 ③:平成31年度(令和元年度)の予算額



むかわ町は

子育て世代が 暮らしやすいまち!

山・川・海という豊かな自然環境と穏やかな気候の中で生活できるむかわ町。
子育て世代が暮らしやすいまちを目指して様々な支援・助成を行っている。

住宅サポート

むかわ町への移住・定住促進、町内外の方の住環境整備のための各種助成制度

新築・中古住宅取得助成「はーとふる・ほーむ助成事業」

助成対象

- ・むかわ町内に新築戸建て住宅を建築する方
- ・むかわ町内の中古戸建て住宅を購入する方

助成条件

- ・5年間の定住誓約を取り交わすことが可能な方
- ・住宅取得にあたり、他の補助・移転補償等を受給していないこと(一部除く)
- ・税等の滞納がないこと

助成内容

■住宅建築費

- ・建築費1,500万円以上(消費税抜)の施工住宅の場合:

120万円(内、金券40万円)

※町外建築業者が施工する場合は半額

■中古住宅購入費

- ・建物本体の売買価格200万円以上(消費税抜)場合:

40万円(内、金券20万円)

※所有権移転後、半年以内の申請が対象
※リフォーム助成併用の場合は半額



■子育て世帯支援加算

- ・18歳以下の未就労同居者1名につき、**10万円**上乗せ助成

■土地購入費

- ・土地購入費200万円以上の場合**20万円**
※移住促進の観点から、対象は町外者のみ

条件など詳細は下記まで問合せを。

リフォーム助成

「はーとふる・りふぉーむ助成事業」

移住・定住の促進に資する改修

助成対象

- ・町外からの移住、もしくは町民が定住のために取得した中古物件についての改修工事を行う方
- ・取得から3年を経っていない物件(新規就農者は取得からの期限なし)
- ・「はーとふる・ほーむ助成」の中古住宅の取得助成と併用可能対象となる経費、助成率、助成上限額の設定があるので、詳細は右記まで問合せを。

助成制度の相談・申込窓口

むかわ町役場

1. 本庁2F 建設水道課技術グループ
TEL.0145-42-2427

2. 穂別総合支所1F 地域経済課建設グループ
TEL.0145-45-2117

町HP <http://www.town.mukawa.lg.jp/1.htm>

生活のできごと/移住・住まい/
むかわ町の各種住宅助成制度について/
※上記から、申請様式(pdf)をダウンロード
できます。





子育てサポート

むかわ町の特徴ある子育て支援

妊婦

不妊治療の助成

不妊治療の負担軽減を目的に、道の助成事業に上乘せて助成。

妊婦健康診査費還元事業

妊婦健診(14回)、エコー検査(6回)の助成券を使用した日に生じた自己負担金をむかわ町子育て支援CARDへポイント還元(但し、保険診療分を除く)。

妊産婦安心出産支援事業

町内に分娩可能な医療機関がないため、妊婦さんが安心して通院・出産ができるよう通院交通費にかかる経費の一部を助成。

ママ・サポート119

妊婦さんが出血等で緊急治療や搬送が必要な場合、出産予定医療機関へ救急車で搬送(事前登録が必要)。



0~18歳まで

子育て支援医療費還元事業

発熱・胃腸炎・中耳炎・虫歯の治療・・・と医療費の負担が大きい子育て時期、そんな医療費の自己負担分を「むかわ町金券」に交換できる制度。この金券は町内での買い物などに利用できる。



▲むかわ町金券



▲むかわ町子育て支援CARD (ポイントカード)

乳幼児

子育て応援事業・ごみ袋配布

オムツ換えがたいへんな乳幼児がいるご家庭に、ゴミ袋を無料で配布する事業。

20リットルの指定ゴミ袋なので、使用後のオムツを溜め込まず、こまめに捨てることができる。



乳幼児・学齢児等

予防接種費用助成

- 定期予防接種 自己負担なし(無料)
- 任意予防接種 インフルエンザ(1~15歳) 自己負担1,000円/回



特別の理由による任意の予防接種費用助成

骨髄移植等で接種済みの予防接種の効果が期待できないと医師に判断された場合の再接種にかかる費用の助成。

園児

一時預かり保育

保護者のパート就労等により一時的に保育が必要な子どもや、保護者が傷病、その他の事情から家庭保育ができない子どもを一時的にこども園で預かってくれる。

対象

町内に住所がある満1歳から就学前の子ども

①非定期的預かり保育サービス

対象

保護者の就労体系により、家庭での保育が断片的に困難な子ども

②緊急預かり保育サービス

対象

保護者の傷病、入院等により緊急、一時的に保育を必要とする子ども

③私的理由による預かり保育サービス

保護者の私的理由(美容院や歯医者に行きたい、リフレッシュしたい、ゆっくり休みたい等)による一時的な保育

※対象 認定こども園・地域保育所に通っていないまたは在籍していない乳幼児

※原則、利用希望日の7日前までに、こども園へ連絡が必要



保育料の軽減

認定こども園(認可保育所)の保育料を国の基準より安く設定し、保護者の負担を軽減する制度。

ひとり親家庭、障がい者のいる世帯等についても、免除及び減額を行っているほか、世帯主等の失業、病気等で世帯の収入が激減すると見込まれる場合等についても減免を行っている。

助成制度の相談・申込窓口

むかわ町役場

1. 本庁 健康福祉課
子育て福祉グループ
保健介護グループ
TEL.0145-42-2415
2. 穂別総合支所 地域振興課
町民グループ 健康グループ
TEL.0145-45-3326
URL <http://www.town.mukawa.lg.jp/4121.htm>



詳しくは「むかわ町子育てガイドブック」で





町民と行政が協働で創るまちづくりへの想い



まちの希望のある明るい未来を願って



町民の幸せの源である健康を願って

むかわ町民憲章

むかわ町は、広大な大地、豊かな森林に囲まれ、清流鶴川が雄大な太平洋へとそそぐ、大自然に囲まれたまちです

私たちむかわ町民は、この自然に感謝し、先人が築いてきた歴史と文化を受け継ぎ、心豊かに人々との絆を大切に希望のある明るい未来を拓くため、全町民の願いをこめてこの憲章を定めます

- ◎自然を愛し、心豊かで、産業を育む活力あるまちに
- ◎みんなが力をあわせ、互いにあいさつと笑顔を交わす住み良いまち
- ◎心とからだをきたえ、学びや仕事にはげみ、元気に過ごせるまちに
- ◎未来を担う子どもたちを見守り育て、生き生きと明るい希望あふれるまちに
- ◎常に挑戦する気持ちを持って進歩するまちに

(平成28年3月27日制定)

「人と自然が輝く清流と健康のまち」宣言

恵みの大地、豊かな森林に囲まれ、清流鶴川が雄大な太平洋へとそそぐ、大自然の中で、心身ともにすこやかに、いきいきと暮らし続けることがわたしたちの願いです

健康は、幸せの源（みなもと）です

人も自然も「健康」であることが、地域や産業、ここに暮らしているわたしたち自身を輝かせることにつながります

わたしたちは先人のたゆまぬ努力によって培われてきた歴史、人のつながり、美しい自然を大切に、このまちが未来を担う子どもたちにとって誇りと夢をもって心豊かに育つふるさとであり続けるために「人と自然が輝く清流と健康のまち」をここに宣言します

平成28年3月27日 むかわ町



平和を願って

むかわ町は「非核平和の町」を宣言しました

地球上には未だに地域紛争が続き、北朝鮮による弾道ミサイルが北海道上空を通過する等住民に不安を与えている状況が続いていますが、その反面核兵器禁止条約が国連で採択され、本町も加盟している平和首長会議では核兵器廃絶を目指す2020ビジョン(核兵器廃絶のための緊急行動)が取組まれるなど世界平和への機運が高まっています。

むかわ町はこれらを契機として、世界で唯一の被爆体韓国・70年の歳月を過ぎても癒えない核兵器の非人道性を訴えるとともに、自治体、国を越えた連帯により、清流と健康の町宣言に示された豊かな自然と町民の健やかな暮らしを後世に引き継ぐため、自治体としての決意を示し、町民みなさんの意識の高揚を図ることを目的として、パブリックコメントのほかまちづくり委員会や町議会との意見交換を経て、2017年(平成29年)12月13日に「非核平和の町」を宣言しました。



非核平和の町宣言

世界の恒久平和は人類共通の願いです。

地球上では、未だに地域紛争が後を絶たず、核兵器開発を中心とした大量破壊兵器の拡散が懸念されています。

私たちは、唯一の被爆国として日本国憲法の掲げる恒久平和の崇高な理念のもと、核兵器廃絶と戦争回避の活動により、平和文化を構築していく責務があります。

豊かな森林に囲まれ、清流鴛川が雄大な太平洋にそそぐ大自然の中で、健やかに生き活きと暮らし続けることを願うむかわ町は、恒久平和の実現に寄与するため、自治体や国の垣根を越えて連帯し、核兵器の根絶と平和に向けて努力することを誓い、「非核平和の町」を宣言します。

2017年(平成29年)12月13日

むかわ町



子どもたちの健やかな成長を願って

むかわ子ども宣言

わたしたちは、美しい自然に恵まれた、

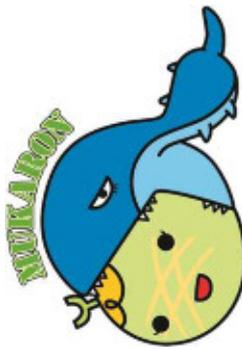
むかわの子どもです

夢のある明るい未来を拓くため、ここに
宣言します



- 笑顔で元気にあいさつします
- 健康な心とからだをつくります
- 仲間を思いやり命を大切にします
- あきらめない心で学び挑戦します
- ふる里の豊かな自然を守り伝えます

(平成29年3月27日制定)



まちの皆さまの想いをことうて
宣言し、実現に向けて町民
と行政が一体となったまちづ
くりを進めています